

25journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

東海大菅生高校後援会長 橋本健司氏

3月18日に阪神甲子園球場で開幕する第95回記念選抜高校野球大会に東海大学菅生高校が出場する。選抜は2年ぶり5回目、夏を合わせると9回目の甲子園になる。1983年の開校以来、同校後援会長を務める橋本健司氏(88)は、大会を通じた菅生ナインの成長と念願の全国制覇達成へエールを送る。

大会通し選手たちの成長願う

全国制覇へエール

菅生は昨秋の都大会を圧倒的な強さで制し、選抜出場を確定的にした。選手たちは晴れの甲子園の舞台に思いを馳せ、鍛えの冬と向き合ってきた。

だが、選手たちにも関係者にも思いもつかぬ不測の事態が発生。菅生野球を常勝軍



橋本健司氏

選手たちは頭を丸め、選抜大会への意気込みを示した。橋本氏は「シヨッキングな事態を乗り越え、

団に育てた若林弘泰監督(56)が1月21日付で退き、上田崇新監督(29)が就任した。

出場選考にも影を落としたが、選抜出場が決まると関係者は一様に胸を撫で下ろした。

子どもたちには一回りも二回りも成長して欲しい。部員たちは頭をまるめ、勢いがある。精神的に影響はないと思う。菅生の活躍はあきる野市をはじめ西多摩に元気をもたらすと期待する。

大会開幕まで後援会は寄付金集めや応援団派遣などの準備に追われる。「毎回多くの皆さんの協力に感謝している。今回もスタンドで声援を送るのが楽しく」と相手を崩す。橋本氏は、同校創立

者で前理事長の島田久氏とは青梅農林高校で席を隣りにして以来、人生の半分以上を共に歩んできた盟友。島田氏は野球部の甲子園出場を毎回楽しみにしていた。

2010年に島田氏は肺炎で死去。橋本氏は弔辞で「野球部が甲子園で活躍し、東海大菅生の名を広めましたね。甲子園での試合に後援会会長として応援できたことは私にとっ

機関車バス「青春号」運行終了 当初から無駄使いの指摘も

乗物ファンに愛され3月末で「武蔵五日市駅」をつるる温泉」を往復する



姿を消す機関車バス

機関車バスは全国でも珍しいトレジャータイプの路線バスとして、西東京バスが日の出町の補助を受け1996年11月に運行を開始。観光の目玉として子どもたちをはじめ乗物ファンに親しまれてきた。

だが、運行当初から無駄使いとの指摘があり、車両を買い替えた2007年度の決算審議では、現町長で当時町議だった田村みさ子氏が「汽関車バス

が3月31日で運行を終る。近年車両老朽化による故障が頻発し、部品確保もままならない状態が続いていた。

運行終了前の3月下旬頃に「機関車バスお別れイベント」の開催が計画されている。

決断、養蚕からトマトへ

青梅は古くから梅の里として知られてきた。ウメは特産品として有名だが、近年は東京近郊という立地を生かし、トマトの生産も盛んだ。友田町にある輪千農園も、そんなトマト農家。輪千恵太郎氏が栽培をはじめ、息子の智一氏と一緒に取り組んでいる。

1949年生まれの恵太郎氏は、こうしたベンチャー的な経営姿勢は、東京都農業試験場(現東京都農林総合研究センター)で近代農業を学んだことと無関係ではない。都内でもまだめずらしかった栽培システムにチャレンジした姿勢を智一氏も見習いたいという。

「わが家は代々、この地で養蚕を手がけてきた。けれども、父が20代前半のころトマト栽培を本格

化している。はじめは土に植えていたが昭和60年、水耕栽培の一種であるロックウール栽培というやり方に切り替えた」

輪千農園 輪千智一氏



クワール栽培システムの会社で農業研修をしたあと実家に戻った。「それが2002年のこと。振り返ってみれば、昔気質で無口な父の足跡をたどるようにして、日々の仕事に取り組んできた。これからは農園の規模を上げながら、トマトづくりの面白さを地元

の若い人たちに伝え、農業にたずさわる人の数を増やしていきたい」

いま、輪千農園の1000坪弱の若い人たちに伝え、農業にたずさわる人の数を増やしていきたい

3人兄弟の長男である智一氏は

におよぶガラス張りの温室では赤々とした大玉と中玉のトマトが

た。小学校卒業のスピーチでは、

「時勢も味方したかも。健康と安全・安心志向、地産地消を提唱するJAの直売所オープンが間違

「時勢も味方したかも。健康と安全・安心志向、地産地消を提唱するJAの直売所オープンが間違

に進んだ。卒業後、1年ほどロックスが続く。」

【岡村繁雄】

不動産全般

(公社)全日本不動産協会 (公社)不動産保証協会 東京都知事免許(2)第95965号

有限会社 幸邦

代表取締役 田村 実

羽村市羽西 1-6-27

Tel.042-555-7901 Fax042-555-7902



争点は産廃や村政の安定とビジョン

坂本氏 6選へ立候補表明 立候補に貧乏くじとの声も

榎原村長選

統一地方選で行われ、榎原村長選(4月23日投票)で、現職の坂本義次氏(78)が3月17日、6選を目指して無所属で立候補すると表明した。自民、公明の推薦を受け組織力で選挙戦を乗り切る見込みだが、今回の坂本氏の立候補を「貧乏くじを引いた」と指摘する声が少なからずある。次期日銀総裁候補に

経済学者の植田和男氏がなった。「日銀が行っている金融政策は適切。金融緩和を継続し、企業が賃上げできる環境を整える」という。今回の総裁人事は貧乏くじという声が多い。大規模金融緩和の出口戦略の難しさを指摘したものだ。2007年の自民党総裁選に臨む際、福田康夫氏は「貧乏くじかもしれない」と語った。突然の安倍総理の引退。自民党への逆風は強かった。いずれも不利益を覚悟で引き受けた。

村長選には、先に元村総務課長の吉本昂二氏(70)が立候補を表明。掲げたのが「人里地区への産業廃棄物焼却場建設計画の断固阻止」。都が建設を許可した場合でも、法的手段で対抗する考えを示した。選挙では建設反対の一本道を突き進めばいい。

一方、坂本氏は施設の稼働に伴い多量の水が必要とされることから「住民へ安定した水の供給ができなく

なる」として反対の姿勢を示したが、「都の専門家会議の意見を都知事も尊重する。民間が都の許可を取って行う事業を誰が村長になっても反対しても止められない」の見解を示した。現職として現実論を語ったが、反対住民派の反発を招いた。

東京の奥座敷、村の将来にとって豊かな自然は、坂本氏、吉本氏も含め全村民が宝であるとの認識は共通したものだ。その自然のただ中に産業廃棄物焼却場はまったく異質なものだ。

高度成長期、村の基幹産業として碎石を容認した時と今では時代が違ふ。記者は環境主義者でもなんでもないので、今のそしてこれからの村に産業廃棄物焼却場のような施設ができるのは大きなマイナスと感ずる。

2月4日号の東京25ジャーナルで「吉本氏の立候補は坂本氏にとって想定外。選挙戦では建設を断固阻止するという吉本氏に坂本氏

可を決定し、計画が着手されれば、産業廃棄物焼却場を許した村長と言われかねない。逆に敗れば名村長が庁舎をさみしく去ることになる。

ただ、郵政民営化に賛成か反対かを問うた2005年の総選挙のように産廃のワンインシーの選挙はやってはならないだろう。村政の安定やビジョンをしっかりと論戦していくことが村の将来にとって大事な。その中で理解し合える糸口が見いだせるかも知れない。

選挙戦は現職有利が常だが、大きな争点があった選挙は何が起こるか分からない。元々、南北戦争と言われた激しい選挙戦が展開された地域。仮に坂本氏が6選を果たし、都が許

可を決定し、計画が着手されれば、産業廃棄物焼却場を許した村長と言われかねない。逆に敗れば名村長が庁舎をさみしく去ることになる。

石川酒造株式会社

福生市の気軽に遊びに行ける酒蔵



東京都福生市熊川1番地 石川酒造 検索

優等賞受賞

多満自慢 純米大吟醸
贈り物として喜ばれる日本酒
令和四年東京国税局酒類鑑評会で優等賞を受賞した多満自慢の逸品。包み込むような吟醸香と洗練された味わいは手間ひまと時間をかけたからこそ。贈り物にも最適です。
お酒は20歳になってから。

江戸時代の曲泉の修理を語る 木工、金具、漆、皮の修理工程詳しく



修理の工程を詳しく語る五十嵐さん

木工作家、五十嵐誠さんが講演

羽村市川崎の宗禅寺で2月18日、土曜講座が開かれ、同市在住の木工作家、五十嵐誠さんが「江戸時代の曲泉の修理を終えて」と題し、200年余り前から同寺に伝わる曲泉の修理の様子を詳しく、座面に布や皮を張り、脚は朱・黒塗りで、蒔絵を施すこともある。鎌倉時代に禅宗とともに宋から伝わったという。

宗禅寺所有 製作年は「文化四年」

同時の所蔵庫にあった曲泉は随分傷んでいたが、処分を考えたが、製作年を見ると「文化四年」と記されていた。西暦で1808年、210年余り前のもので、「お焚き上げしては申し訳ない」と高井正俊住職は思った。以前、明治時代に作られたデザイン性豊かなテ

味を探っている」とし、曲泉の修理を引き受けた動機となっていると相談したところ、修理を引き受けてくれたという。

修理には木工の五十嵐さんのほか、漆塗り、金具、皮の職人が携わった。同寺の曲泉は明治期と、その後も修理された形跡があったが、ぼろぼろの状態だったという。

「本目と作家との一期一会で生まれるのが木工芸作品」と語る五十嵐さんは、機械加工が進化した木工で、「手作業だけでやる意味がある」と語った。

講演後は参加者が代わる代わる曲泉に座り、しばし歴史の重みや悟りの世界など、それぞれに思いをはせていた。

如是我聞

宗禅寺土曜講座聴聞記⑨

宗禅寺所有 製作年は「文化四年」

同時の所蔵庫にあった曲泉は随分傷んでいたが、処分を考えたが、製作年を見ると「文化四年」と記されていた。西暦で1808年、210年余り前のもので、「お焚き上げしては申し訳ない」と高井正俊住職は思った。以前、明治時代に作られたデザイン性豊かなテ



講演後は参加者が代わる代わる曲泉に座り、しばし歴史の重みや悟りの世界など、それぞれに思いをはせていた。

※「如是我聞」では土曜講座を連載でレポートします。